



撮影：建築写真家 吉田敬子氏

## 桐生絹織株式会社

桐生のあるノコギリ屋根工場の中では、おそらく最長の桁幅を持つ桐生絹織のノコギリ屋根工場。2018年1月、桐生市が国より認定された歴史的風致維持向上計画の重点区域内に位置するこのノコギリ屋根は、四連の木造瓦葺き、南北26メートル、東西43メートルという規模を誇り、圧倒的な存在感を放っている。

桐生絹織はノコギリ屋根工場の他、事務所棟、歴史ある主屋、従業員宿舍跡を活用したアパートが敷地内に配された桐生を代表する織物工場である。主屋、ノコギリ屋根工場は創業した昭和10年代に建てられたもの。初代・牛腸清吉は創業時から広幅織物（輸出織物）を手掛け、満韓支（現在の中国、韓国）向けに事業を展開、以来、一貫して広幅織物を製織している。1948年（昭和23）に法人設立、高級毛皮コートに使用されるシルクとベンベルグの交織を得意とした。当時はジャガードにボーダー、ほぐし織りを組み合わせた高度な製織技術による高級裏地が全盛で、北米やヨーロッパ向けの輸出により事業を拡大した。二代・牛腸栄太郎の後を継ぎ、1976年（昭和51）、三代目に就任したのが現社長の牛腸章氏。しかし、当時はワシントン条約や円高の影響で輸出が厳しい時代に入っており、生製品の主流は毛皮の裏地から「服地」へと移行していった。

現在は特殊織物の生産で培った技術を活かし、シルクから綿、化学繊維まで多様な素材に対応、



婦人服地やフォーマル生地など小回りの利く多品種小ロットで短納期と、時代のニーズに合わせ稼働している。また、牛腸氏は2016年に桐生織物協同組合の理事長に就任し、歴史ある繊維産地の代表として業界の振興に努めている。

大規模な機屋として産業景観を見せる桐生絹織は、営みと建造物が形成する桐生独自の歴史的風致を色濃く現している。

●場所／桐生市西久方町1-3-30

●電話／0277-22-5155

存在感放つ最長のノコギリ屋根  
産地を代表し業界けん引